




第 64 号
 発行
 小松同窓会本部
 〒923-8646
 小松市丸内町二ノ丸15
 石川県立小松高等学校内
 天守台編集委員会
 TEL (0761) 21-6330

私たち高校33回卒生のホームスクリミングデイが、去る11月5日に開催されました。還暦という節目を迎える年に、卒業から41年振りに母校に集い、かつての恩師の授業を受けるという機会は本当に素晴らしい行事であり、歩んできた道はそれぞれではありますが、同じ昭和・平成・令和を駆け抜けてきた同窓との再会、そして還暦後の言わば人生二巡目の起点として、古きを懐かしむと共に自身も振り返り、今後に思いを馳せる良い機会となりました。この行事の企画・運営にご尽力いただいている方々に感謝申し上げます。



年頭所感
 『還暦を迎え思ふこと』
 北陸電力社長 松田 光司(高33回)

侵攻等により当時を彷彿とさせる様相となっております。当社からみれば大幅な省エネ化、再エネルギーの拡大や、脱石油として石炭やLNGへのエネルギーの分散が進んだこともあり、かつてほどの社会的混乱は少ないとは思いますが、例えば、電力の主力である石炭やLNGについては、あまり報じられていませんが、実は4〜5倍の価格高騰という、これまで経験したことのない異常な水準となっているのが現状です。国内の電源構成は、東日本大震災以前は原子力が1/3程度を占めていましたが、震災以降その減少分のほとんどをこの化石燃料で賄って

私たちが在学したのは、1978年(昭和53年)から1981年(昭和56年)です。当時の世情を振り返ると、職業柄エネルギー関係が気になりますが、1978年のイラン革命、翌々年のイラン・イラク戦争に端を発した第二次オイルショックの真っ只中の時代にありました。今から見ると、その数年前に勃発した第一次オイルショックを含め、エネルギー供給に不安がない前提で成長してきた日本社会の土台が大きく揺らいだ、まさに一つの時代の転換期だったと思います。あれから40年以上経った今、エネルギー資源の状況は、ロシアのウクライナ

おり、今回のウクライナ問題等による影響は極めて甚大であり、当社の経営に与えるインパクトは、当時をはるかに超えています。日本のエネルギー自給率は10%程度と世界的にも低位なままであり、改めてエネルギー安全保障の重要性が注目されています。

私は一昨年、北陸電力の社長の職に就きました。元来北陸は豊富な水力資源を持つ地であり、私たちの先人は洪水を引き起こす急峻な地形を克服して、水力発電所を建設してきました。戦後も水力開発を復興と地域の発展につなげるべく幾

多の苦難を乗り越え、その結果、水力発電の比率が全国でも最も高い電力会社となりました。カーボンニュートラルの時代、北陸電力の強みである水力が改めて評価され、低廉な電気を安定的にお届けできる礎となっています。



3代目社長 原谷啓吾氏

北陸電力は創立71年目ですが、私は11人目の社長となります。出身県でみますと、富山県が8人、石川県が2人、福井県が1人です。その石川県出身の一人目が、私たちの大先輩にあたる小松中学出身の原谷啓吾氏です。驚くことに、私が小松高校に入学した当時の社長であり、しかも第二次オイルショックの真っ只中で、電力の安定供給と経営の安定化に立ち向かわれた経営トップでありました。奇しくも小松高校出身の社長が、時代は違いますが、歴史的なエネルギー情勢下に直面し、経営の舵取りを担うという共通した状況に、何とも不思議な縁というかが、巡り合わせを感じます。今回、還暦を迎えホームスクリミングデイで母校に集い、同窓会記念会館の建物や展示物に触れ、同窓が紡いできた小松高校の歴史の大きさを改めて感じるとともに、目には見えない「松高パワー」をもらった気がします。還暦後の二巡目の人生、母校とのつながりをより深め、北陸電力の理念でもある「ゆたかな活力あふれる北陸」に少しでも貢献し、この与えられたステージを一步一歩踏みしめていくと、年の初めに誓うものであります。

どうい生きてる

金戸 隆幸 (中46回)

昭和18年4月、我々154名は、緊張の上にも緊張して向坊校長の訓示を聴き、小松中学生としての学業が始まった。

制服の袖に白線が2本入って誇らしかったが、同時に軍事態勢に備えて、巻脚絆の装着が義務づけられた。小学校の6年を卒業したばかりの田舎者にとってこれはなかなかの曲者だった。教わった通りに脚絆を巻き、大股の上級生の後を小走りに登校するのである。今江から学校までは4キロ、向本折あたりで脚絆がずり落ち、急ぎまき直し、漸く校門に走り着く。すると今度は待ち受けている教練の教官の点検をうけ、漸く校庭での整列となるのである。でも、ひと月もすると、ずり落ちも止まり、教官の点検も一発で合格となった。

学習の方はさすが上級校、漢文、英語、数学は代数・幾何となにもかも新しく懸命に学んだ。

その間にも戦争は日々激化、現役将校が教練の教官として配属され、校長の横の席に座り、軍事教科が増えてきた。真夜中の12時出発の夜間行軍が実施され、眠りながらのよろよろ行進もあったが、戦地の兵隊を思っって皆頑張った。

ところが2年生になった途端、戦局

が更に悪化、学徒動員令が発動され、上級生は戦場へ、下級生は軍需工場へ動員が命じられた。我々は小松製作所マンガン工場で戦車のキャタビラ仕上げの作業だった。3年生になると、海軍航空隊の小松基地での飛行機の避難格納庫の建て上げ作業に携わった。基地の近くの佐美の農家に分宿し、大豆入りの飯を木製の弁当箱に詰めて貰い、毎日基地へ通って汗だくになって働いた。海軍の兵士たちも、本職は左官や大工、土建業の人達が多く集められており、仕事は順調に進んだ。

引き続き動員は小松製作所の現場へ進出、それぞれに分担が決められた。私には電気切断、電気溶接、鋳物の型込め等、順次作業が与えられる。先輩の社員に教わり事前に厳しく注意も受けながら、電光をまともに浴びて眼を痛め、翌日は真っ赤な目をして頑張ったことは今も忘れられない。隣には女学生の職場もあり、いろいろと賑やかだった。

仕事に慣れた頃、夜勤が入ってきた。夜食の午前0時になると決まって空襲警報がかかり、慌てて豆か米か判らぬ握り飯を片手に、梯川の堤防へと



小松中学校の象徴「帽子の記章」明治32年から昭和24年



小松中学校正門

逃げるのが常であった。その際に福井と富山市街の焼夷弾爆撃を目標。真っ赤な空を見ながら、次ぎは小松だと言ひ合ひ、頬張った握り飯は旨かった。

そして8月15日、終戦の詔勅は、夜勤上がりの小松製作所の集会所で聞いた。雑音が激しく要を得なかったが、神州不滅を信ずる軍国少年にとつては、「もっと頑張れ」との激励と受け止めた。家に帰って父から終戦を告げられても、「今に必ず神風が吹く」と簡単に敗戦を認められなかった。小学校から中学にかけて、日本は神の国であり、やがて神風が吹くから必ず勝つと堅く信じ込まされ、次の特攻隊への志願を決意していた我々であった。

然し神風は吹かなかった。そして日本は連合国軍に対し無条件降伏した。悠久の伝統ある日本の国は滅び、

占領軍が日本国土に進駐して来た。子供心に「鬼畜米英」と罵ってきたその米国の最高司令官マッカーサー元帥が、日本を統治することになった。そして昭和21年元旦、現人神であられた天皇が人間として日本人として、自ら天皇の神格化を否定し、最高司令官を訪問されたのであった。

学校では、戦地から戻った復員兵のうち学業途中の者は中学へ復学して来た。これらの中には、軍隊生活で痛めつけられ心の荒んでいる者があり、冬になると欠席者の机を長靴で踏みつぶし火鉢にくべて暖をとるなどして怖かった。

一方、教育改革の面では、昭和22年平和と民主主義を理念とする教育基本法により六三四制が制定され、4月より実施、県立小松中学は47期生を最後に総合制小松高校に移行した。楽しかるべき中学時代の2年近くを戦争に、更に続く戦後の2年半も、世情と教育内容の激変という敗戦の混乱に巻き込まれた、我々46回生であった。

でも先生方から受けた心の籠った教えと、農家の才工で虱に食われたり、製作所で砂と油と汗にまみれながら培った友情がある。これらがその後私の礎となったように思う。

卒業後は家業の織維の傍ら、作家森山啓、郷土史家川良雄両先生の薫陶を受け、「小松文芸」や地域の歴史の伝承に携わるなど、社会教育の道を歩んで来た。

幸すむ国は いずかたぞ



面 恩 (高三回)

1951(昭26)年卒、90歳です。昨

年8月、梯川の水害、受難の方々に心から御見舞い申し上げます。支流津川上流の山の決壊による濁流が、故郷中海町を水浸しにしました。テレビに映る生々しい惨状に心を痛めました。生家道林寺は川の山側で無事でしたが、1896(明29)年、梯川の大洪水で近くに位置した寺の一切が流失した。1903(明36)年、現在に再建されましたが、1472年創設される歴史を残すものはなく、僅かな傳承のみです。この地から、父と兄弟妹5人が小松中・高校に学びました。

● 混迷を深める世界

世界の情勢が個人の生活に直結する今日です。ロシアのウクライナ侵略などの戦争それに伴う殺傷、民主主義の衰弱化、権威主義の伸長、貧富の格差増幅、自由・人権無視、無知と偏見、イジメ・暴力・不登校、地球温暖化、異常気象、食糧危機、新型コロナなどなど人類最大の受難の時代です。その多くは人間によるもの一人一人自覚し地球を守りましょう。

この生きづらいつらい世の中、特に若い世代が心配です。温もりの場の提供を必要とします。私は自己責任論者で

ありませんが、困難のすべてを政治、経済、社会に押しつけることには否定的です。人間のもつ能力を信頼したいからです。その能力を育むもの、正に教育です。日本の理想の国家像は、戦争しない国、品格のある国、信頼される国であってほしい。

● 小松中学

第二次世界大戦の敗色濃い1945(昭20)年4月、県立小松中学入学、勉学より軍事教練、食糧増産の思い出が強い。木銃で射撃の練習、隊列の僅かのミスを咎めて、団体責任だとして天守台への早駆けが繰り返されたこと、運動場は芋畑に、栗津の牧場から牛糞を背に炎天下5km余の道、汗と糞まみれで運んだ鮮烈な記憶が重い。

軍国主義教育から民主主義教育へ、価値観の大変革に戸惑う先生もおられました。軍需工場から、陸海軍の学校から上級生が学びの庭に帰ってきました。当時は数少ないスポーツ、人気は相撲で全校生あげての応援歌練習風景がありました。1947(昭22)年、金沢・金石海岸での全国中等学校選手権大会個人戦、見事優勝を飾りました。芦城！芦城！芦城！歓喜乱舞、青春の一ページです。

● 幸すむ国―小松中学校歌

北村善八氏作詞の校歌四節に、「幸すむ国はいずかたぞ、人の世の波あらくとも、けがれにそまめ若人よ…」と

ある。校歌の意味は、「体を鍛え、人道を知り、知識豊かな心で理想を高くもち、幸せな世界をめざそう」との呼びかけ、私の理解です。美麗、格調高い表現、つらぬくヒューマニズム、作曲の軽快で明るいうらみ、ララララ小松ラララララ、ララララ小松、私は今でも口遊みます。高校校歌も作詞されました。

北村善八氏(1898~1960)は、小松中、四高、東大英文科出身で、演出家・演劇評論家として著名、小松高校には「北村善八文庫」として書架が残っているとのこと。

● 掲載の写真は1949(昭24)年3月、天守台下です。この日を最後に、学制改革(悪)により高校生活は旧小松工業学校の校舎に移りました。

少し横道に逸れます。名物教師に渾名を付けるのは世の常、「天守台下でギヤフが鳴く、坊さんそこを掘ったれば、チクン痛、痛、サインの力チワリ」諸先生の顔が浮びます。他に数え限など、詠み人知らずの生徒の天才的な感性と発想に驚嘆します。

● 私の幸すむ国は、心地良い居場所

64歳、公職を退き、好きな事をする「手造りのもう一つの人生」の第一歩は、近くの放送大学本部キャンパスで学び直すことでした。次いで山登り、日本百名山登頂を意識し、73歳で完登、ヨーロッパアルプス、エヴェレスト展望トレッキングなど山に熱中でき

る自分の幸せを知りました。知人、近所の人を誘い山登りの会を立ち上げ、名所旧跡歩きを含めて約百回計画実施しました。84歳でグラウンドゴルフの会、88歳でボッチャの会を立ち上げました。すべて「友ありてこそ」です。感謝。

生は偶然、死は必然、頂いた命は悔いなく楽しむことです。平和な世のため、「思いやる心、受け入れる心、行う勇氣」を持ちたいと考えます。最後に親鸞の浄土真宗についてです。心安らかな境地への真の抛りどころと理解しています。生きていくすべての人々の幸せを願うなら、現代の若人の心に届く言葉と行動を示して頂きたい。皆様お幸せに。(東北大法元東京都庁)



小松高等学校1年 谷ル一ム[昭和24年3月撮影]3列目右端が面氏

ホームスクール カミングデイ

3大イベントを終えて

中田 滋(高33回)

還暦という節目の年、『記念館特別展』『第22回ホームスクールカミングデイ』『高校33回同窓会』をコロナ禍ではありましたが、絶妙のタイミングの中、人数制限なく開催ができたのは幸運でした。

3年振りの『記念館特別展』は、我々33回生の強い希望で同級生の九谷焼作家高聡文君、造形作家本多厚二君の二人展となりました。10月8日(土)のオープニングセレモニーには両氏を含む同級生24名、学校関係者、OBOGの方々も多数出席頂きスタートしました。さらに異例の土日開館を33回生有志の協力で実現し84名の同級生が来館し、楽しんでもらえた事は良かったなあと思っています。

『第22回ホームスクールカミングデイ』は11月5日(土)に開催。120周年記念事業で改修されたピンク色が映える同窓会記念館に集合し、二人の秀作を鑑賞しながら久しぶりに会う仲間との再会に皆テンション爆上がり！42年前の卒業記念樹を眺め、会場である新校舎内の視聴覚室へ移動。



10月8日(土)二人展・オープニングセレモニー



ホームスクールカミングデイより

講師に1・2年時に担任をして頂いた数学の佐々木茂先生をお招きし、50名が参加、演題「数学的帰納法と自然数」での特別授業が行われました。33回でもある小松同窓会会長和田学君、垣地校長先生の挨拶の後、井出敏朗君の号令で授業開始。先生より、当時12H、25Hの担任で写真部・ギター部の顧問だった事、生徒が職員室まで質問に来てくれた事、当時住んでいたアパートに遊びに来てくれた事、文化祭のアニメーション制作の手伝いをした事などをお話して頂いてから、高校時代に戻ったかのように数学を分かり易く丁寧(当時こう教えれば良かったとの後悔の念をユーモアを交えながら)ご教授してもらいました。難しくもあり、楽しかった授業を終え、出席者全員での校歌斉唱、福島知朗副会長の閉会挨拶で無事終了。引き続き2年前に修繕工事を終えた天守台に登り、先生との記念撮影。天候にも恵まれ思い出深いイベントでした。



天守台での記念撮影

『高校33回同窓会』は会場をホテルビナリオKOMATSUセントルに移し4名でテーブルとしてアクリル板を設置し感染対策に備え、6年振りに開催しました。恩師4名(北本祥史先生・宮脇徹心先生・表純一先生・佐々木茂先生)をお招きし同級生78名と合わせ計82名が参加、和田君の開会挨拶、松田光司君と井出君の挨拶、築田和夫君の乾杯でスタートし楽しい歓談タイムに。その間にも恩師からの祝辞および教え子からの花束贈呈、アメリカ合衆国より参加の幅田勉君、ラポール悦子さんの登壇挨拶に皆から歓迎の拍手が送られました。あっという間に予定の2時間が過ぎ、最後は校歌斉唱、二木一夫君の万歳三唱で閉会となりました。



同窓会(ホテルビナリオKOMATSUセントル)

私が常任理事になった際「リアルタイムに情報提供するネットワークの構築が必要と感じ、準備として一年前から承認頂いた方に「facebook・LINE・zoom」等で告知し、参加を呼びかけました。クラウド利用の写真共有を現在試験中です。まだ3分の1程度の人数ですが、次の同窓会開催に向け、登録者数増を目指したいと思います。



11月6日(日)ゴルフコンペ

最後になりましたが、今回のイベントに関して私のわがままを嫌な顔せずお助け頂き、無事開催できました事を小松同窓会、学校関係者、ホテルビナリオKOMATSUセントルの皆さま、高聡文君と本多厚二君をはじめ33回同窓生の皆さまに改めて感謝の意を表します。ありがとうございました。

なお、8月大雨による甚大な被害を被った地域への義援金を募り、小松市、能美市に寄付したことも付記しておきます。
翌日は、有志によるゴルフコンペも行われ19名が参加、この日も快晴で楽しいひと時を過ごせたようです。

同窓会だより

第13回関西小松同窓会

—開催顛末記—

副会長 眞原多佳子 (高25回)

平成29年12月、会長、副会長が集まり、新体制がスタートしました。

会長の発案で役員会で基調講演をしてもらうことになり、川端副会長の「カシミヤについて」を皮切りに山本祐太郎さんの「甲子園の思い出」、二木副会長の「最近の学生事情」、角英夫さんの「朝ドラについて」、井尻副会長の「裁判員裁判」と、有意義で面白いお話を伺いました。「さあ、今年は総会！」と思っただけで、今年も総会です。未知のウィルスは人々から楽しみを奪ってゆきました。「集まることまならぬ」のお達しも出て、役員会も開けず、連絡は電話かメール。そして、なんと3度も延期。ワクチン接種が始まり、「コロナとの共存が言われはじめ、やっと開催できると思った時には4年が経っていました。」

準備には半年を要します。6月下旬、幹事会でお知らせ等の発送と人数のとりまとめを依頼。もう後戻りはありません。

ところが感染が強いオミクロン株が出現。大阪では一日2万人が感染する事態に。「延期も取り沙汰される中も会長は「あと3ヶ月ある。」役員会も「たとえ50人でもやりましょう」と決意します。

8月には小松の水害被害もありました。同窓会として何が出来るかを考え、総会で募金することにしました。た

だ開催を信じ祈るしかない夏でした。

そんな中、胸が熱くなる出来事に出会いました。亡くなった会員さんから同窓会費の入金があったのです。ご遺族から「父がいきっていたら出席したかったでしょうから」というご返事でした。同窓会に思いを寄せて下さった故人とその思いをくんで下さったご遺族。自然と手を合わせていました。

お盆すぎ、感染者が減少しはじめました。「よし、できる！」9月10日の役員会では会長が「通常開催」を宣言。10月15日に向けて走り出しました。経験豊富な会長と梅野副会長を先頭に、仕事をし乍ら役員も奔走します。その中には「小松高校の品格を守ることにシナリオも間違いや失礼が無いように何度もチェックします。毎日メールで準備の進捗状況や出席人数も逐一報告されました。皆の願いが届いたのでしょう。出席者が100名を越え、最終的には124名にもなりました。あとはゴールに向かうのみです。」

10月15日ANAクラウンプラザホテル大阪、万葉の間。過去7回開催してきたこの場所に関西小松同窓会はやっと帰ってきました。

準備開始です。プログラムや資料、北國新聞朝刊などを一人分づつ袋詰め。受付では梅野副会長中心に名札等の準備。会場内では川端副会長中心に抽選会賞品の用意。前回は経験した役員が多いので、指示が無くて何をすべきかが分かって下さっています。これが関西の強さの一つです。予定より早く準備が整い、受付がはじまりました。出席者が校歌が流れる会場へ。万葉

の間をフルに使い、1テーブル4〜6名で26テーブルは壮観です。募金も始めます。故郷の災害に皆さん快く応じて下さいます。

定刻13時30分、開会。司会は二木副会長、梅崎・田畑両会計、坂田運営役員が担当。総会懇親会共、そつ無く進められます。会長は5年をふり振り返り、124名もの方々をお迎えできて感謝無量。又、東京一極集中で関西は苦戦しているが頑張っていきたい。そして、次世代に引き継ぐ為に新たに役員をお願いした52回の中澤さんと山本さんを紹介されました。お二人は二度目の甲子園出場メンバーです。野球部出身の会長らしい「中山マジック」に会場から大きな拍手が贈られました。

乾杯の後は歓談タイム。全員着席でホテルのお料理を、堪能するのも関西恒例のお楽しみです。美味しい料理に笑顔があふれます。

本日のお楽しみ大抽選会が始まります。JA小松の蛍米の新米や小松もんのセットなどを会長の「黄金の右手(本人曰く)がひき、川端副会長が読み上げます。高級石鹸やパスタの抽選もある上、紅白蛍米パックが参加賞として配られ空しく無しです。

出席者から戴いた募金に同窓会から

を加え、義援金を贈ることが発表され、市長代理の山口和博経済環境部長に目録が贈呈されました。

さあ、校歌斉唱です。知らない人ばかりなのに、みんなの心が一つになる瞬間です。小松高校卒業生の誇りを胸に歌います。さらに万歳三唱。最後に梅野副会長の閉会のご挨拶。会場全体が大きな拍手に包まれる中、第13回関西小松同窓会は閉会しました。



5年間、不安や迷いの中、常に前を向き、進んでこられた会長が、総会後に言われた言葉です。

同窓会は人と人のつながり。いろいろあったけど、

『小松高校の絆は強い』皆様、ありがとうございました。3年後、またお会いしましょう。

新役員

会長	中山 亮一 (21回)
副会長	梅野 多佳子 (19回)
	眞原 佳子 (25回)
	井尻 潔 (26回)
	川端 徹夫 (29回)
会計	二木 一夫 (33回)
	梅崎 寛美 (34回)
会計監査	田端 知博 (34回)
	佐伯 俊文 (23回)
運営役員	濱本 文彦 (25回)
	中川 弘 (9回)
	上野 輝雄 (11回)
	濱本 世紀子 (13回)
	米田 久紀 (14回)
	表 久紀 (22回)
	阪下 麻弓 (22回)
	徳田 裕平 (24回)
	南雲 守 (24回)
	田中 亮一 (25回)
	中川 信裕 (27回)
	金井 譲介 (29回)
	関野 映子 (29回)
	西川 伸也 (31回)
	石川 博文 (31回)
	坂田 英司 (33回)
	水戸 清喜 (36回)
	澤 明宏 (43回)
	山本 祐太郎 (52回)
	山本 厚 (52回)
相談役	西居 厚 (11回)
	嶋 喜八郎 (14回)
顧問	丸 英治 (中46回)
	丸 善信 (8回)
	谷 善信 (14回)

同窓会だより

二・二会 同窓会

世話人 村田 徹(高22回)

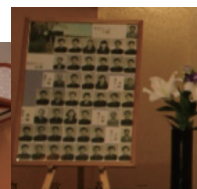
この同窓会はコロナ禍の中で2年延長となり、令和4年10月19日(水)粟津温泉「のとや」旅館でようやく開催となりました。

開催するか、しないか、世話役による検討は、実に辛抱の連続で世の中の感染と対策の動向をキチンと見据え、安心して開催できるように...。2年前に開催を予定していた10月頃を目指し、7月に実施が再延期かを決め、8月上旬に案内状を発送、8月中旬に回収との方針を6月上旬に役員会で決める前に進めました。

7月頃はピークを過ぎるころで、開催することに決め、314名に案内の往復ハガキを発送しました。

案内の返信は231名(返信率74%)と大半の方からいただき、其の内、180名から「お会いしたいが所用有り欠席」「皆様によるしく」「幹事さんご苦労様です」「元気にしています」「仕事頑張っています」「家族を介護しています」「次回は必ず参加したい」などのコメントがありました。

その結果、51名の希望者により開催となりました。また、恒例の同窓会ゴルフは10名の参加で開催。天候に恵まれ皆満足できるスコア?で上がる事が出来ました。楽しかったあー!いよいよ懇親会となり、会場では、世



↑物故者一覧



話人、中村一秀君の総合司会で、開会宣言がなされ、物故者39名に謹んで黙祷を捧げ。

東野義信会長の開催挨拶となり、会員の活躍など、近年の動向について丁寧に紹介されました。引き続き声高らかに乾杯し、宴席開始となりました。

しばらくは静かでしたが、段々声が大きく響き渡り宴席も盛り上がってきました。この調子では、もうすぐ会場が乱れそうなので、落ち着いている時の皆の談笑模様の写真を撮ろうと席をたちました。歓談されている方を数名単位で撮り進めると、どなたも肩を組みあったり、顔を寄せ合った

り、素晴らしい笑顔でカメラを見てくれ、撮っている方も実に楽しくなってきました。

時間もあつという間に過ぎ、音源に合わせ心の中で校歌斉唱を!実際、音源が流れると、音源では無く、生の声が聞こえ大合唱に!

林幸樹前副会長の音頭で万歳三唱の中締め一次会終了!

引き続き、隣の会場で二次会が開かれ、座席自由で好きな者同士で久しぶりの談笑、一次会よりも更に距離が短くなった感じ!

二次会模様、坂本和哉君のギター演奏&歌、そのギターに合わせて青春賛歌を皆も熱唱し弾ける手拍子!盛り上がり最高!高校時代あんなにやったけ?いいなあ~

撮影写真を出来るだけ早く送ろうと思い、急遽「ヨグル」を作りました。すると、受信された方から即返信がきました。私のグループでは10数名しかいないので、受信された方から他の同窓会メンバーにグループに友達勧誘してもらい、写真を広めることが出来ました。総数約130枚程度でしたが、極めて短時間でデリパリー出来ました。また、一方的な配信ではなく、受信者からの即時コメントも出席者の興奮模様が伝わってきました。具体的には、「幹事をしてくださった皆様のおかげで、半世紀を軽く超える歴史をスッ飛ばし、あの頃の気分に戻れました!」「企画ありがとう♡お疲れ様でした。二次会担当あ

りがとう♡」「写真班!大活躍。美しい男女ヒトはより美しく、さほどでもないヒト(まあ私)をも腕力で美しく撮ってくれました。スバラシ!」「ワクチン接種は、もうやるまい!との方針を曲げて出席資格取得のため3回目を打って(出席)。久しぶりの飲みすぎた酔いも心地良く、同窓の皆さんに感謝です!」「本当楽しい夜を過ごすことが出来ました。長く話してなかった友との語らい、嬉しかった!」また、元氣でお会い出来る日を楽しみにしています!」



同窓会だより

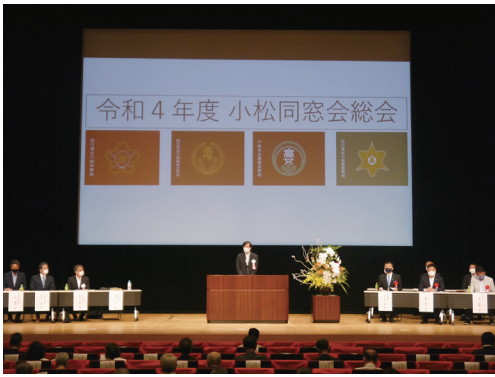
小松同窓会総会報告

田上 好裕 (高38回)

令和4年7月2日、こまつ芸術劇場うららで小松同窓会総会が行われ、約260人が出席しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、懇親会の代りに特別講演会という形式での開催となりました。

幹事学年である高校47回の大田隆志さんと松本朋世さんが司会を務め、まず福島知朗副会長(高38回)から開会の言葉がありました。

続いて和田学同窓会会長(高33回)より挨拶があり、2年半ぶりに同窓生が集まることのできた喜びと、特別講演会の講師を引き受けて頂いた田中新太郎前石川県副知事(高27回)の



紹介およびコロナ禍にも関わらず出席いただいた会員への感謝の言葉がありました。

垣地正樹校長からは進学や部活動の結果など学校の近況もご説明いただき、文武両道に励んでいる生徒の様子を知ることができました。

来賓である佐々木紀衆議院議員(高45回)、宮橋勝栄小松市長(高50回)、井出敏朗能美市長(高33回)、中山雄二関西同窓会会長(高21回)、浜崎英明金沢同窓会会長(高25回)、松田光司富山同窓会会長(高33回)の紹介がありました。佐々木さんからは、衆議院会館を訪ねてくれる官僚や企業関係の方々に小松高校出身者が本

当に多く、全国津々浦々で小松同窓生が活躍しているという実感をお伝えした挨拶をいただきました。また中山さんからの挨拶では令和4年10月15日(土)ANAクラウンプラザホテル大阪で予定されている関西小松同窓会総会のご案内もいただきました。

総会の議題は全て原案通り可決され、その後ホームスクールカミングデイや小松同窓会青雲賞表彰などの各種事業について担当役員より報告がありました。

特別講演会では「失敗や人との出会いを成長につなげる凡人なりの生き方」という演題で田中新太郎さんから生い立ちから小松高校、大学



での思い出、石川県庁での幅広い分野での体験等についてユーモアを交えながらお話をしていただきました。特に教育長時代に取り組まれた県内高校の各種課題のお話は大変興味深いもので、小松同窓会や教職員の方々にとって大いに参考になりました。和田会長からお礼の言葉があり、下徳ごつえ会計(高31回)から花束を贈呈し、約1時間の田中さんの講演に対して会場から万雷の拍手で感謝の気持ちを伝えました。最後に恒例の校歌斉唱の後、鈴木俊也副会長(高35)の挨拶で閉会となりました。今回は食事を伴う懇親会はできませんでしたが、休憩時間等で久しぶりに会った同窓生と旧交を温める光景があちらこちらで見られ、コロナ禍ではありましたが、沢山の笑顔が見られた総会および特別講演会となりました。

令和3年度 小松同窓会 [会計決算書]

収入額.....4,209,080円
支出額.....3,240,697円
翌年度繰越額.....968,383円

Table with 5 columns: 科目, 予算額(A), 決算額(B), 増減額(B-A), 摘要. Rows include 会費, 繰越金, 雑収入, and 計.

Table with 5 columns: 科目, 予算額(A), 決算額(B), 差引額(A-B), 摘要. Rows include 總會費, 卒業記念品, 通信事務費, 渉外費, 業務委託料, 会報事業費, 記念館事業費, 記念館管理費, 会合事業費, 小松同窓会文庫事業費, 一般事業費, 雑費, 予備費, and 計.

令和4年度 大会出場・成績一覧表

Table with 4 columns: 部・同好会名, 大会成績, 部・同好会名, 大会成績. Rows include categories like 水泳, 運動部, ボート, 野球, and 将棋, listing various competitions and results.



「天守台」編集委員会

Table listing the editorial committee members: 学校職員 (松田, 沖野, 知隆, 高30回), 委員 (細川, 千鶴, 教頭), 副委員長 (宮浦, 誠治, 高33回), 委員長 (前野, 百合, 高12回), 委員 (山口, 洋子, 高12回), 次郎 (東, 和博, 高34回), 委員長 (東, 次郎, 高22回).

編集室だより

新年明けましておめでとうございます。64号年頭所感は北陸電力の松田さん、2面、3面は大先輩の金戸さん、面さんにご寄稿頂き有難うございました。より一層のご活躍をご祈願申し上げます。
またコロナ禍の中#3年ぶり、開催にこぎつけた関西小松同窓会・高22回同窓会・高33回生ホームスクールカミングデイの同窓会報告もご覧ください。
旧年は各回常任理事の皆様のご尽力で、多くの天守台ご購入申し込みを頂きました事に天守台編集委員会より御礼申し上げます。今後ともより一層天守台へのご支援ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。(東)



[同窓会本部] TEL:0761-21-6330
メール:komatsudousoukai@gmail.com
ご住所の変更などございましたら、事務局までご連絡いただきますよう、よろしくお願いたします。

